

経営比較分析表（令和6年度決算）

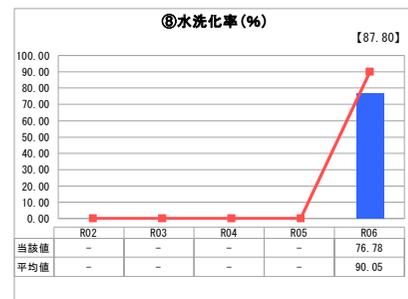
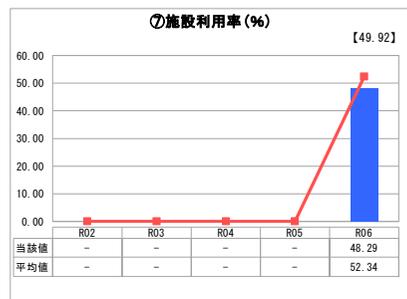
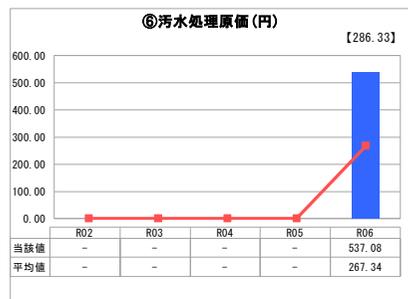
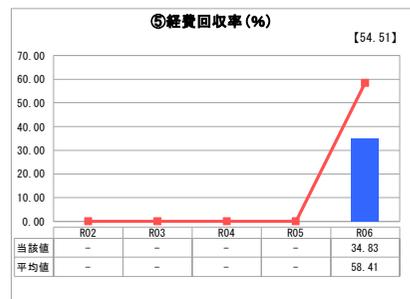
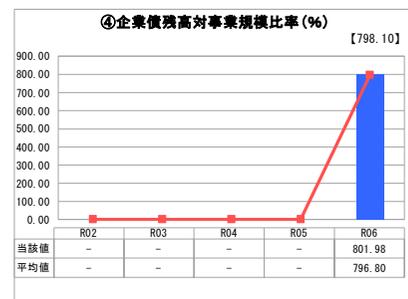
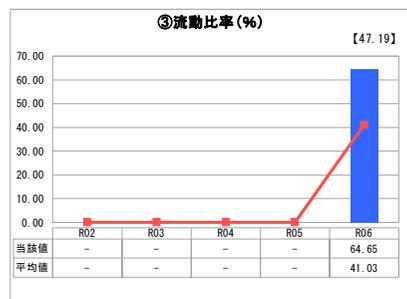
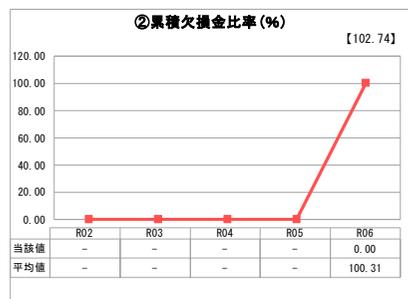
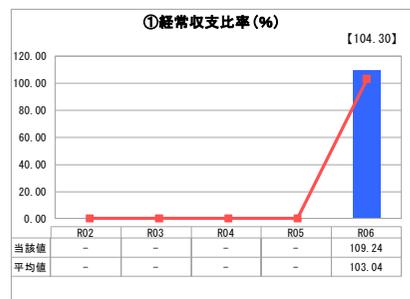
香川県 三豊市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)
-	86.53	3.76	100.00	4,180

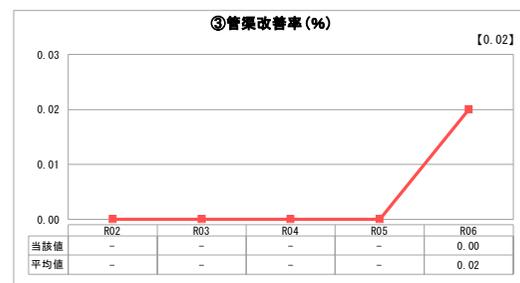
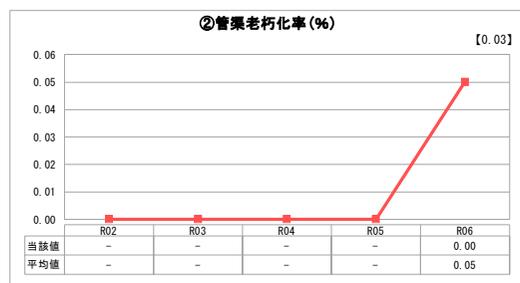
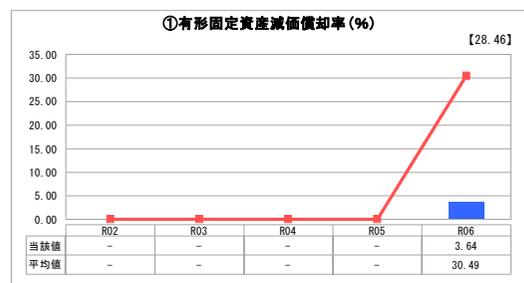
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
60,480	222.69	271.59
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,261	1.77	1,277.40

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本事業は市内5施設を対象としており、令和6年度より地方公営企業法適用へ移行した。経常収支比率(経費回収率)は34.83%であり、類似団体平均値(58.41%)を大きく下回っている。これは汚水処理費用を使用料収入等で約3割しか賄えておらず、一般会計からの繰入金への依存度が高いことを示している。

汚水処理原価は1立方メートルあたり537.08円で、類似団体平均(267.34円)の約2倍のコストがかかっている。また、水洗化率は76.78%(類似団体平均90.05%)にとどまり、施設利用率も48.29%と5割を下回っている。

法適用化により減価償却費等のコスト構造が明確化された中で、他団体と比較しても高コスト・低収益の構造が顕著であるため、接続率の向上による有収水量の増加を図るとともに、徹底した経費削減が必要である。

2. 老朽化の状況について

法適用化に伴う資産評価替等により、決算数値上の有形固定資産減価償却率および管渠老朽化率は0.00%と表示されているが、実態としては供用開始後20~30年を経過しており、管渠及び施設・機器等の物理的な老朽化が進行している。

今後は、適切な機能診断調査等に基づき、国庫補助事業等を活用した計画的な長寿命化更新工事を実施し、将来的な更新費用の平準化を図っていく必要がある。

全体総括

法適用初年度の決算において、類似団体と比較しても低い経費回収率と高い処理原価という課題が改めて浮き彫りとなった。

今後は、経営戦略の改定を通じて、人口減少に伴うサービス需要の減少や施設の老朽化による更新需要の増大を見据えた投資の合理化(ストックマネジメント)を進める。また、県や近隣市町との情報共有や広域的な連携強化を図り、汚水処理の最適化に向けた検討を進める。加えて、適正な料金水準のあり方についても、将来負担の世代間公平性を考慮しつつ検証を行い、持続可能な経営体制の構築に努める。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。